

衆院選挙区画定審議会の小早川光郎会長(右)から区割り改定案の勧告を受けた安倍晋三首相
—19日午後、首相官邸(撮影・松本尚也)



松山の浮穴と久谷は2区へ

衆院区割り案 審議会勧告

久万高原町は4区

衆院選挙区画定審議会(区割り審、会長・小早川光郎成蹊大客員教授)は19日、小選挙区定数を「0増6減」し「1票の格差」を是正する区割り改定案を安倍晋三首相に勧告した。愛媛県内では、2区の久万高原町(2015年国勢調査での日本国民人口・8415人)を4区に編入したほか、1区の旧松山市を分割し、浮穴投票区と久谷第1~4投票区(計1万9936人)を2区に編入する方針が盛り込まれた。(2・3・7面に関連記事)

総務省によると、改定し地勢や交通、自然的社会的な場合、2区の20年見込み人口が27万4417人、4区が27万2265人となり、改定基準とした全国最少県の最少選挙区の鳥取1区(27万7569人)を下回るため、改定の対象となった。区割り審は選挙区を飛び地にせず、行政区画のほか

改定案では、愛媛県内各選挙区の20年見込み人口は、1区114万2320人(鳥取1区との格差1・66倍)▽2区112万86337人(1・032倍)▽3区113万5063人(1・099倍)▽4区112万9614人(1・007倍)となる。4区の人口は全国で9番目に少ない。県全体の人口は133万3334人で、議員1人当たり人口は33万3334人。

県内で唯一、市域が分割されている松山市は、1区の人口が市全体の90・2%(15年国調人口ベース、改定前比3・9%増)、2区9・8%(3・9%増)となる。県内では14年衆院選から、2区だった伊予市と内子町小田地区が4区に編入されており、勧告を反映した改正公職選挙法が成立すれば、短期間で県内の区割りが再び変更されることになる。

抜本的な見直しを中村時広知事のコメント1票の格差を是正するため、現状のように人口移動があるたびに、一時しのぎの選挙区域の変更を繰り返す(ことは決して望ましいことではない)。国と地方の役割分担や地方分権の推進、衆院と参院の役割の明確化など、国のあるべき姿をはっきりと示し、選挙制度の在り方について抜本的な見直しを図るよう、引き続き強く求めていきたい。(山本良)

県内衆院4小選挙区の区割り改定案



愛媛新聞掲載記事
平成29年4月20日